

鉄砲小路遺跡

—第2次調査—



平成20年(2008) 8 月
久留米市教育委員会

序

久留米市には、筑後川や耳納山地がもたらす豊かな自然環境の恵みを受けて暮らしてきた先人達が積み重ね、創造してきた生活・文化遺産が数多く存在しています。

本書で報告する鉄砲小路遺跡は、城下町侍屋敷の一角であり、御先手足軽組の組屋敷が所在した鉄砲小路侍屋敷跡地を中心とする遺跡で、今回はその北西隅部を調査しています。

本書にはその発掘調査成果を収録していますが、本書が文化財の理解・普及に寄与し、生涯学習や学術研究の資料として活用されますことを願うと共に、今回の調査に対し、御理解・御協力いただきました関係各位に対し厚く御礼申し上げます。

平成20年8月31日

久留米市教育委員会
教育長 石川 集充

例 言

1. 本書は、久留米市蜷川町所在の鉄砲小路遺跡第2次調査の報告書である。
2. 調査は、共同住宅の建設に伴い、地権者■■■■氏と久留米市長江藤守國との契約に基づき、受託事業として実施したもので、発掘調査から報告書作成に至る費用は、地権者が負担した。
3. 発掘調査は、久留米市文化観光部文化財保護課の水原道範・熊代昌之が担当した。現地調査は平成20年1月15日より同年1月25日の期間に実施した。
4. 本書に掲載した遺構の実測図は水原と大淵文子が作成し、遺物の実測は水原と畠中和子、図面の清書は畠中、写真撮影は水原が行った。
5. 本書の遺構実測図は国土調査法系第Ⅱ座標系（世界測地系）を基に作成し、図面の方位は全て座標北を示す。
6. 本書中の遺構略記号は、SD……溝、SK……土坑、SE……井戸を示す。
7. 鉄砲小路遺跡第2次調査の略記号はLKP-3、調査番号は200729である。
8. 本調査に関わる遺物・記録類は、全て久留米市埋蔵文化財センターに収蔵・保管されている。
9. 本書の執筆・編集は水原が行った。

本文目次

I. はじめに	1
II. 遺跡の位置と環境	2
III. 調査の記録	4
IV. おわりに	13

I. はじめに

1. 調査に至る経過

本調査は共同住宅建設工事を原因とする発掘調査である。調査は平成19年7月9日地権者[REDACTED]氏より久留米市螢川町4-1の一部における「埋蔵文化財包蔵の有無」についての照会がなされたことに始まる。これを受けて同年11月12・15日に試掘を行ったところ、土坑などの遺構が検出され、西側は検出面がほぼ露出した状態であることが判明した。以後は協議を進め、対象面積417㎡の内、建物が建設される約141㎡分について発掘調査を実施することで協議が成立した。その後12月11日に発掘調査の依頼が提出されたことを受け、文化財保護法による諸手続きを進め、平成20年1月4日に[REDACTED]氏と久留米市長江藤守國は「鉄砲小路遺跡第2次調査埋蔵文化財発掘調査委託契約書」を取り交わし、1月15日より現地における発掘調査を開始した。

2. 調査の体制

本調査に係る組織体制は以下のとおりである。

調査委託：[REDACTED]

調査主体：久留米市教育委員会	教 育 長	石川 集充
調査総括：久留米市文化観光部	部 長	緒方 眞一（平成19年度）
		中園 雄介（平成20年度）
文化財保護課	課 長	関 知彦（平成19年度）
		水落 哲也（平成20年度）
	課長補佐兼課主査	立石 雅文
		山口 淳
		古賀 正美（平成20年度）
	事務主査	松村 一良
		近澤 康治
	調査庶務	本庄 ともえ
	調査担当	水原 道範
		熊代 昌之
	整理担当	畠中 和子
		毛利 志保（平成19年度）
		豊田 章子（平成20年度）

発掘調査臨時職員

秋永絹子・安達真由美・大淵文子・緒方静香・佐藤朱美・田中とし子・堤嘉博・西ヶ迫久美子
中野ゆみ・藤井佳都子・三小田美智子・村上令子

II. 遺跡の位置と環境

本遺跡は久留米市中心部の蜷川町に所在する。調査地は筑後川左岸の氾濫原へ延びる標高10～12mの低台地の西端部、標高10mの場所に所在する。現在は埋め立てが進行して平地化しているが、本来、約5mの高低差を測る台地下には湿地帯が広がり、一帯は昭和末期頃まで蓮根の栽培が盛んに行われていた。

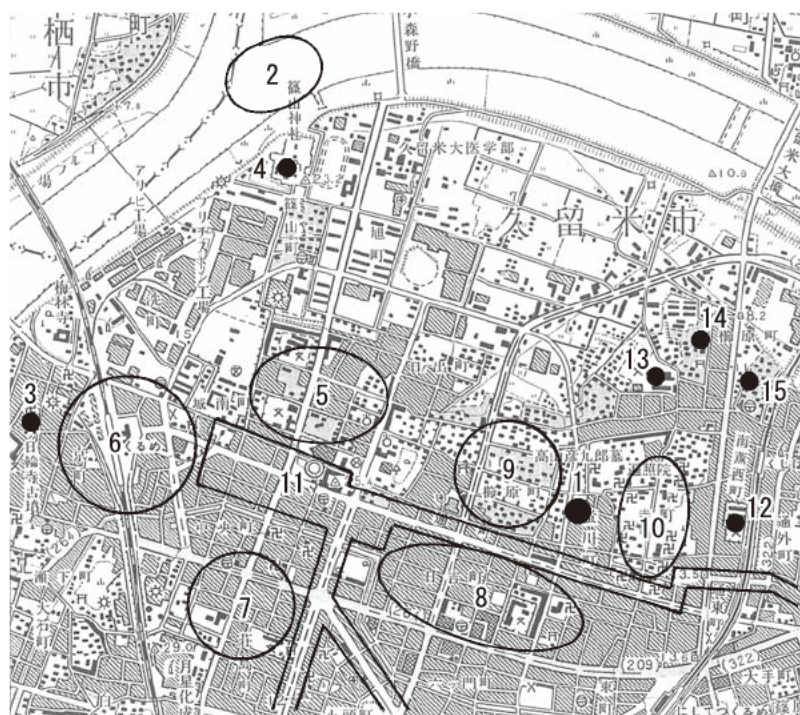
蜷川町は明治6年に新たに付けられた町名で、それ以前は「鉄砲小路」と呼ばれ、元和7年（1621）に久留米藩主となった有馬氏による城下町の整備によって開発された町である。旧城下町域はその整備の際に大規模な改変を受けて中世以前の遺跡も失われたと考えられ、その詳細は不明な点が多い。但し、近年は久留米城外郭遺跡や京隈侍屋敷遺跡の調査によって、弥生時代中期の竪穴住居や甕棺墓が発見されている。

そこで、城下町の開発を受けていない地区を参考に弥生時代の遺跡を見ると、調査地と同じ台地上には、北側に弥生時代前期～中期の竪穴住居や袋状土坑が多数検出された東櫛原今寺遺跡があり、さらに台地の北端部では2列埋葬された甕棺墓が多数検出され、銅矛や管玉類が出土した石丸遺跡があり、櫛原天満宮には支石墓の上石と伝えられる巨石が残されている。さらにその東側に隣接する辻遺跡からも列埋葬されたと考えられる甕棺墓が検出されるなど、筑後川左岸の台地端部に遺跡が集中して分布している。

奈良～平安時代の遺跡としては、南薫西遺跡が挙げられる。この遺跡は8世紀から10世紀前半頃までの長期に亘って営まれた集落遺跡で、『和名抄』に見える筑後国御井郡節原郷の中心域と考えられる。その中でも、8世紀後半代の土坑などから「芋原」「大神」「大領」などと記された墨書・刻書土器22点が出土し、高良大社に残された「（筑後国）神名帳」中にある「芋原神」「大神神社」との関連が注目される。

久留米城と城下町の変遷を見ると、15世紀頃に付近の土豪により久留米城の前身となる笹原城が築かれたと伝えられるが、この時点では砦程度のものであったと考えられる。戦国期の筑後国は、豊後大友氏と肥前龍造寺氏の勢力が衝突する最前線となり、両氏の盛衰にあわせて国人たちは保身を謀らねばならなかった。戦国末期の久留米城には高良山座主良寛の弟麟圭が龍造寺側として籠り、大友方の良寛と激しく対立、約3年間に及ぶ籠城戦も行われたと伝えられる。豊臣秀吉の九州征伐後に久留米城主となった毛利秀包は久留米城と城下町の整備を行ったようであるが、僅か14年の治政は、文禄の役への出征など不在の時期が多く、未完のままであったと考えられる。毛利氏夫妻は熱心なキリスト教徒でもあり、両替町遺跡では教会遺構が検出された。毛利氏は関ヶ原合戦において西軍に属したことから改易され、新たに石田三成を捕らえる功績があった田中吉政がその行賞によって柳川城を本城とする筑後一国の領主となると、久留米城には次男則政、その早世後には家老坂本和泉を置いた。この頃の久留米城は東向きで、後に長町一～四丁目、元町、内町などからなる小規模な城下町があったようである。調査では、築島町から両替町に至る地区で有馬氏の改修以前の久留米城の堀と想定される大溝が検出された。田中氏も僅か20年間の治世で改易され、翌年有馬氏が筑後北半国の領主として入部している。

鉄砲小路については、鉄砲小路の西端を筑前方面から大久保渡し（小森野町）を経て城下へ入る街道が通過し、隣接する寺町と共に城下入口の備えとして建設されたと考えられる。なお、街道は、城下町域の拡大などにより後の慶安元年（1648）に通町十丁目口から宮地渡し（宮ノ陣町）を通る経路へと変更され、大久保渡しと共に廃止されたが、道は里道化して残り、幕末まで調査地の北側隣接地には番所が置かれ、現在も東櫛原町には「博多道」の里称が残されている。



1. 鉄砲小路遺跡
2. 小森野川底遺跡
3. 日輪寺古墳（国指定）
4. 久留米城本丸跡
5. 久留米城外郭遺跡
6. 京隈侍屋敷遺跡
7. 庄島侍屋敷遺跡
8. 十間屋敷遺跡
9. 櫛原侍屋敷遺跡
10. 寺町
11. 久留米城下町遺跡
12. 南薫西遺跡
13. 東櫛原今寺遺跡
14. 石丸遺跡
15. 辻遺跡

第1図 鉄砲小路遺跡の位置と周辺の遺跡分布図（1／25000）



第2図 鉄砲小路遺跡周辺の調査地点位置図（1／2500）



第3図 鉄砲小路遺跡第2次調査区全景（南西から）

Ⅲ. 調査の記録

1. 調査の概要

調査は平成20年1月15日、重機を用いての表土剥ぎ作業より開始した。表土剥ぎは15日に終了し、翌16日より作業員を動員し、発掘器材の搬入や遺構の検出作業を行い、東側の土坑や井戸から掘り下げを開始した。21日には測量も行い、掘り下げと併行してトータル・ステーションによる実測作業も開始。22日には雨天のため現場を休止したが、23日は排水作業の後、掘り下げと実測作業を続けた。24日午前中に掘り下げを終了して遺構の清掃を行い、午後には全景・個別写真の撮影を行い、実測の補足作業を行った後、発掘機材を撤収した。25日には重機による埋め戻し作業を行い、現地作業を終了した。

遺構実測はトータル・ステーションを用いて測量し、そのデータはアイシン精機社製ソフト「遺構くんai」に編集・保存している。その他に適宜1/20の個別実測図を作成した。

写真記録は6×7判のモノクローム、及びカラーリバーサルフィルムを用いて撮影した。

2. 遺構の概要

溝1条、土坑7基、井戸4基、旧建物礎石抜き取り痕、ピット群を検出。

基本層序

近代に盛土された表土を除去すると地山面の褐色土になり、褐色土の上面が遺構検出面となっている。調査区東端側では表土から遺構検出面まで約40cmの深さを測るが、西端部では約3cmで遺構検出面となっている。



第4図 鉄砲小路遺跡第2次調査遺構配置図 (1/100)

土坑

SK1 (第4図) 調査区東部で検出。平面形は長辺約1.1m、短辺約70cmの長方形を呈する。深さは約50cmを測り、底面は平坦。暗褐色土の埋土中からは、色絵・染付磁器、青磁、ガラス製品など昭和初期の遺物が33点出土した。

SK2 (第4図) SK1の約20cm北側で検出。長辺約1.0m、短辺約80cmの長方形を呈し、深さは約50cmで、底面は平坦である。暗褐色土の埋土中からは、色絵・染付磁器、陶器、ガラス製品が19点出土。

SK3 (第4図) SK2の約40cm北側で検出。平面形は長辺約1.0m、短辺約70cmの長方形を呈する。深さは約25cmを測り、底面は船底状となる。暗褐色土の埋土中からは、色絵・染付磁器、青磁、白磁、ガラス製品が50点出土した。SK15よりも後出する。

SK4 (第4図) SK3の約30cm北側で検出。平面形は一辺約90cmの方形を呈する。深さは約20cmを測り、これも底面は船底状。暗褐色土の埋土中からは、色絵・染付磁器、青磁、ガラス製品など19点の遺物が出土。SK15よりも後出。



第5図 調査区東部遺構群全景（南から）



第6図 SK15土層状況（北西から）

SK5（第4図） SK4の約30cm北側で検出。平面形は長軸約1.0m、短軸約80cmの長方形。深さは約40cmを測り、底面は平坦。暗褐色土の埋土中からは、色絵磁器碗・皿、白磁碗・蓋、ガラス製品、ミニチュア大根土製品、銅製おろし金など14点の遺物が出土。SK15、SD10よりも後出する。

SK6（第4図） SK5の約50cm北側で検出。遺構は調査区外へ延びているが、平面形は直径約90cmの円形と判断される。深さは約60cm。灰色土の埋土中からは染付磁器、白磁、青磁、陶器、ガラス製品、銅製品など14点の遺物が出土。

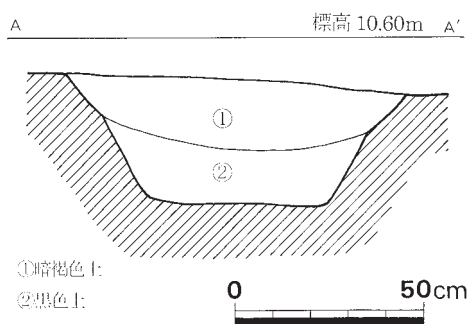


第7図 SD10全景（北から）

SK15（第6図） SD10よりも後出するが、SK3～5に先行する土坑。平面形は一辺が3.5m前後の方形を呈する。掘り下げは北側の一部に止めたが、深さは約1.0mを測り、青灰色粘土層まで掘り込まれている。埋土は暗褐色土中に白色粘土のブロック土が多量含まれた土で、埋土中からは染付磁器、白磁、陶器、土師器、瓦類が21点出土している。

SK16（第4図） SK5・6の東側で検出。直径約1.0mを測る円形の土坑。深さ約10cmで底面は平坦。暗褐色土の埋土中からは色絵・染付磁器、陶器、土師器など13点が出土。

溝



第8図 SD10土層実測図（1/20）

SD10（第7・8図） 調査区北部を東西走行する溝。遺構は西側・東側共に調査区外へ延びているが、約18m分を検出。上端幅は1.2～1.5mを測り、東側が広がっている。深さは25～35cmで断面は逆台形を呈し、下端幅は60cm前後。底面は西側から東側へ向かって傾斜し、両端部のレベルは約40cmの比高差を示す。埋土の状況から一度埋まった後に掘り直されたものと想定され、常に滞水した状況は認められない。遺物は土師器細片5点が出土したのみ。



第9図 SE11全景（北から）



第10図 SE12全景（北から）

井戸

SE11（第9図） 調査区南東隅で検出。平面形は直径2.0m前後の円形を呈し、掘り下げは表土から約90cmに止め、完掘はしていない。埋土は褐色土中に白色粘土と明褐色土が多量含まれた土で、染付磁器、白磁、陶器、土鍋、銅製煙管吸口など91点が出土。

SE12（第10図） SE11の北側で検出。平面形は直径1.8m前後を測る円形。この井戸も掘り下げは表土から約1m分に止めている。埋土は白色粘土が多量に含まれた褐色土で、色絵・染付磁器、白磁、青磁、陶器、土師器、土製品、銅製品など181点の遺物が出土した。

SE13（第4図） 調査区中央部で検出。平面形は直径約1.0mを測る円形。掘り下げは70cmに止めている。埋土は白色粘土を多く含む暗褐色土で、埋土中からは陶器の挿鉢口縁片、土鈴1点、棧瓦片が各1点出土したのみである。

SE14（第4図） 調査区中央部で検出。平面形は直径約1.0mを測る円形。掘り下げは20cmに止めている。埋土は褐色土中に多量の黄色砂質土が含まれた土で、遺物は染付磁器片5点、白磁細片2点、陶器細片2点が出土したのみである。

出土遺物

今回の調査では、近世・近代の陶磁器、土師器、瓦器、土師質土鍋、銅製品、鉄製品、ガラス製品など、コンテナ3箱分の遺物が出土。遺物は土坑SK15、井戸SE11～14から出土した染付磁器を中心とした江戸時代の18世紀後半～19世紀代の遺物と、土坑SK1～6、16から出土した近代遺物に大別される。^(註1)

上記の近世遺構出土遺物では、磁器に対し陶器もほぼ同量出土しているのに対し、近代遺構出土遺物になると、陶器は色絵茶器セット（54～57）、インク瓶（51）の他には、植木鉢と小壺の細片が各1点あるのみで、さらに染付磁器も減少して、色絵磁器が圧倒的に多くなる傾向が見られる。この近代遺物は、大正時代末～昭和初期の生産品の特徴を持つガラス製品や、「有28」「瀬93」「岐929」「岐1039」という昭和16～20年の政府が行った窯業統制による統一記号銘を記した陶磁器が出土することから、戦中～戦後に一括廃棄されたと考えられる。

以下、第11～14図に主な遺構出土遺物の写真や拓影を掲げた。その詳細は第1・2表を参照されたい。

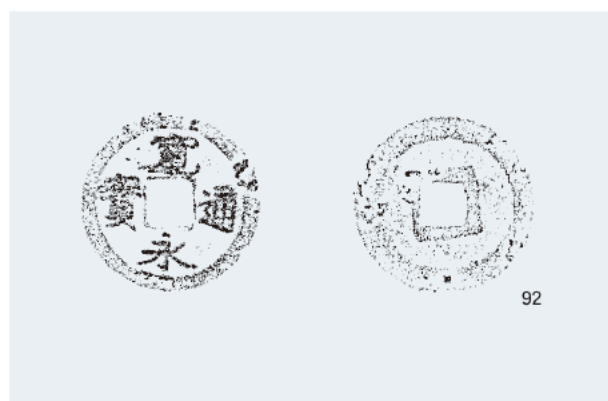
註1 近代遺物については、同僚の小澤太郎より教示を得た。



第11図 鉄砲小路遺跡第2次調査出土遺物写真①



第12図 鉄砲小路遺跡第2次調査出土遺物写真②



第13図 鉄砲小路遺跡第2次調査出土遺物写真③

第14図 S K12出土寛永通宝拓影

第1表 鉄砲小路遺跡第2次調査出土遺物観察表(1)

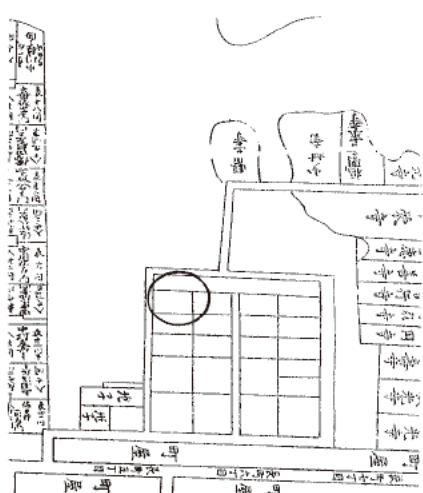
遺物 No.	出土遺構	種 別	器 種	法 量 (cm)			染付 釉薬	装 飾			底面・高台内 印銘等	製作地	年 代	遺 物 登録番号
				口径[長]	底径[幅]	器高[厚]		文様・調整 外面	内面	特徴・文字等				
1	SK1	磁器	碗	—	4.5	6.2	色絵	赤線	—	—	日陶	愛知	1935～40	200729 —000001
2	SK1	磁器	香炉	7	5.3	5.2	青磁	—	—	—	有28	有田	1941～45	200729 —000008
3	SK1	磁器	碗	11.3	4.8	5.4	青磁	黒刻蓮弁文	—	口縁部染付軸	岐929	岐阜	1941～45	200729 —000002
4	SK1	磁器	碗	10.8	3.7	5.6	白磁	—	—	口縁金彩	—		昭和初期	200729 —000003
5	SK1	磁器	井	12	4.6	6.9	染付	山水・反物	—	—	—		昭和初期	200729 —000004
6	SK1	磁器	碗	9.7	3.2	4.7	白磁	—	—	—	岐□□7	岐阜	昭和初期	200729 —000007
7	SK1	磁器	鉢	16.8	8.4	7.0	染付	雷文・唐草文	山水文	—	「渡」?		昭和初期	200729 —000005
8	SK1	磁器	鉢	17.8	8.0	7.2	染付	花文・流水文	花文・流水文	口紅	—	瀬戸・美濃	昭和初期	200729 —000006
9	SK1	ガラス	丸薬瓶	1.2	3.7	6.0	—	—	—	—	—		昭和初期	200729 —000014
10	SK1	ガラス	クリーム瓶	4.7	5.1	4.4	—	—	—	—	日靴塗聯		昭和初期	200729 —000012
11	SK1	ガラス	インク瓶	2.4	5.2	5.4	—	—	—	—	—		昭和初期	200729 —000011
12	SK1	ガラス	クリーム瓶	4.2	4.5	5.2	—	—	—	—	—		昭和初期	200729 —000013
13	SK1	ガラス	インク瓶	2.8	5.2	6.1	—	—	—	—	登録M(丸善)		昭和初期	200729 —000009
14	SK1	ガラス	インク瓶	2.7	5.5	6.3	—	—	—	—	—		昭和初期	200729 —000010
15	SK1	布製品	不明	12.0	—	—	—	—	—	甲砲一式 九 8□□	—		昭和初期	200729 —000109
16	SK1		ブラシ	—	—	—	—	—	—	豚毛No.2 東京 銀座資生堂	—		昭和初期	200729 —000110
17	SK2	磁器	皿	12.0	6.2	2.3	色絵	—	紅葉文	輪花	角印「辻林」		昭和初期	200729 —000019
18	SK2	磁器	皿	13.0	5.7	3.9	色絵	紅葉文・園線	園線	—	角印「清斎」		昭和初期	200729 —000017
19	SK2	ガラス	クリーム瓶	3.4	3.8	6.6	—	—	—	金属蓋残存	レート		昭和初期	200729 —000019
20	SK2	磁器	碗	10.3	3.5	4.7	色絵	軍旗・飛行 機文	—	—	岐1039		1941～45	200729 —000015
21	SK2	ガラス	瓶	1.7	3.9	11.8	—	—	—	—	函金		昭和初期	200729 —000018
22	SK3	磁器	皿	(6.0)	(2.5)	3.8	染付	笹文	—	内底蛇ノ目軸 剥ぎ	—	肥前	18C後半	200729 —000030
23	SK3	磁器	皿	11.2	6.7	2.1	染付	—	瓢箪文	銅版印刷	—	瀬戸・美濃	明治～大正	200729 —000029
24	SK3	磁器	クリーム瓶	3.3	3.6	5.0	白磁	—	—	—	MASTER		昭和初期	200729 —000028
25	SK3	ガラス	クリーム瓶	4.8	5.4	4.1	—	—	—	—	日靴塗聯		昭和初期	200729 —000026
26	SK3	磁器	碗	10.4	3.5	5.6	色絵	柿文	—	—	—	肥前	昭和初期	200729 —000022
27	SK3	磁器	湯呑碗	6.2	3.9	7.2	白磁	金文字	—	昭和五年敬老会 婦人会	八丁島		昭和5年	200729 —000021
28	SK3	ガラス	薬瓶	6.4	3.9	8.5	染付	—	—	小児科本間病院	—		昭和初期	200729 —000024
29	SK3	ガラス	コップ	—	5.0	(6.8)	—	切子	—	—	—		昭和初期	200729 —000023
30	SK3	磁器	瓶	2.3	5.4	10.2	白磁	—	—	—	—		昭和初期	200729 —000020
31	SK3	ガラス	瓶	1.4	4.4	12.5	—	—	—	LEMOTONE	意匠登録		昭和初期	200729 —000027
32	SK3	ガラス	瓶	2.5	5.9	18.2	—	—	—	—	—		昭和初期	200729 —000025
33	SK4	磁器	皿	—	4.2	2.3	染付	—	笹文	内底蛇ノ目軸 剥ぎ	—	肥前	18世紀後半	200729 —000031
34	SK4	磁器	皿	18.8	17.0	2.5	色絵	—	花卉文	3分割	HAND PAINTED JAPAN		昭和初期	200729 —000032
35	SK4	ガラス	コップ	—	5.0	(5.2)	—	切子	—	—	—		昭和初期	200729 —000038
36	SK4	ガラス	ボマード瓶	4.7	6.3	4.0	—	—	—	—	メヌマボマード	埼玉	昭和初期	200729 —000035
37	SK4	ガラス	クリーム瓶	5.3	4.0	4.1	—	—	—	「嵯皇奉天組合」 銘金属蓋付	—		昭和初期	200729 —000034
38	SK4	ガラス	インク瓶	2.2	5.2	5.6	—	帆掛け舟	—	USE INK	意匠登録出願中		昭和初期	200729 —000036
39	SK4	ガラス	ビール瓶	—	6.4	(12.5)	—	—	—	DAI NIPPON BREWERY CO. LTD	—		昭和初期	200729 —000037
40	SK4	ガラス	ケチャップ瓶	2.5	3.6	15.5	—	—	—	カゴメケチャップ	五芒星文		昭和初期	200729 —000033
41	SK5	磁器	蓋	10.0	3.4	3.0	色絵	牡丹文	—	—	角印「石口」		昭和初期	200729 —000041
42	SK5	磁器	皿	[17.0]	[10.0]	2.6	色絵	宝珠し文	海龍文	—	—	肥前		200729 —000043
43	SK5	磁器	碗	10.8	3.9	5.7	白磁	—	—	口縁に金線	—		昭和初期	200729 —000040
44	SK5	磁器	碗	10.4	3.3	5.5	色絵	花文・園線	—	口縁に金線	瀬93	瀬戸	1941～45	200729 —000042
45	SK5	ガラス	目薬	1.2	3.0	6.3	—	—	—	目薬ヒュンスイ 田原製薬会社	—	—	昭和初期	200729 —000045
46	SK5	ガラス	瓶	1.0	2.4	5.6	—	—	—	—	—	—	昭和初期	200729 —000046

Ⅲ. 調査の記録

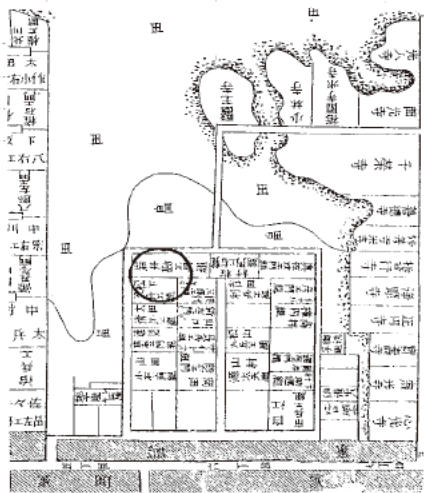
第2表 鉄砲小路遺跡第2次調査出土遺物観察表(2)

遺物 No.	出土遺構	種 別	器 種	法 量 (cm)			染付 釉薬	装 飾			底面・高台内 印銘等	製作地	年 代	遺 物 登録番号
				口径[長]	底径[幅]	器高[厚]		文様・調整		特徴・文字等				
47	S K 5	ガラス	ボマード瓶	4.2	4.8	4.0	—	—	—	—	メヌマボマード	埼玉	昭和初期	200729 -000048
48	S K 5	ガラス	コップ	—	5.0	(10.0)	—	切子	—	—	—	—	昭和初期	200729 -000047
49	S K 6	ガラス	牛乳瓶	—	4.6	(10.2)	—	—	—	久留米ミルク プラント	—	久留米?	昭和初期	200729 -000044
50	S K 6	磁器	皿	—	5.0	(2.5)	染付	—	五弁花	内底蛇ノ目軸 剥ぎ	—	肥前	18C後半	200729 -000052
51	S K 6	陶器	インク瓶	[4.0]	[4.4]	5.5	染付	P.	—	—	—	—	昭和初期	200729 -000057
52	S K 6	磁器	湯呑碗	7.7	4.4	8.4	染付	圈線	—	—	柳山	肥前	1941~45	200729 -000051
53	S K 6	磁器	鉢	(17.4)	9.2	6.0	色絵	—	草花文	—	許有200	—	昭和初期	200729 -000058
54	S K 6	陶器	急須	6.8	6.5	8.0	色絵	草花文	—	—	—	—	昭和初期	200729 -000053
55	S K 4	陶器	湯呑碗	[7.0]	3.5	5.5	色絵	草花文	—	—	—	—	昭和初期	200729 -000056
56	S K 4	陶器	湯呑碗	[7.0]	3.5	5.4	色絵	草花文	—	—	—	—	昭和初期	200729 -000055
57	S K 3	陶器	湯呑碗	6.7	3.6	5.4	色絵	草花文	—	—	—	—	昭和初期	200729 -000054
58	S K 6	ガラス	香水瓶?	—	2.0	(10.5)	—	切子	—	—	—	—	昭和初期	200729 -000063
59	S K 6	ガラス	瓶	3.0	4.7	11.0	—	—	—	Morinaga	—	—	昭和初期	200729 -000060
60	S K 6	ガラス	瓶	2.0	5.7	16.2	—	—	—	中川飲料工業所	—	—	昭和初期	200729 -000059
61	S K 6	ガラス	ラムネ瓶	—	4.5	(14.7)	—	—	—	—	—	—	昭和初期	200729 -000061
62	S E 11	磁器	皿	[12.0]	[4.0]	3.3	染付	—	草文	内底蛇ノ目軸 剥ぎ	—	肥前	18C後半	200729 -000067
63	S E 11	磁器	皿	[8.2]	(2.9)	染付	—	鳥文	—	—	—	肥前	18C後半	200729 -000068
64	S E 11	磁器	皿	12.6	7.6	3.2	染付	蔓草文	矢車・五弁花	大明年製	—	肥前	18C後半	200729 -000066
65	S E 11	陶器	鉢	[11.0]	(10.5)	—	灰釉	刷毛目文	—	—	—	肥前	18C後半	200729 -000069
66	S E 12	磁器	皿	—	[8.0]	(2.0)	染付	蔓草文	—	—	—	肥前	18C後半	200729 -000075
67	S E 12	磁器	手塩皿	8.5	4.0	1.9	染付	—	宝珠文・ 竹文・大模文	花型	—	肥前	18C後半	200729 -000070
68	S E 12	磁器	皿	14.5	8.0	3.5	染付	—	山水扇文	蛇ノ目型高台	—	肥前	18C後半	200729 -000072
69	S E 12	磁器	仏花器	6.6	4.8	12.6	染付	草花文	—	—	—	肥前	18C後半	200729 -000071
70	S E 12	磁器	碗	[7.0]	[3.0]	5.7	染付	波文	—	—	—	肥前	18C後半	200729 -000073
71	S E 12	磁器	鉢	14.6	6.1	7.4	青磁	—	陽刻葉文	三又トチン痕	—	肥前	18C後半	200729 -000081
72	S E 12	磁器	土鍾	5.7	1.5	—	—	—	—	—	—	—	—	200729 -000083
73	S E 12	陶器	タンコロ	5.0	5.0	2.4	褐釉	—	—	—	—	—	18C	200729 -000076
74	S E 12	陶器	雪平鍋蓋	[13.0]	—	4.5	藁灰釉	—	—	獅子型つまみ	—	—	18~19C	200729 -000077
75	S E 12	陶器	雪平鍋蓋	13.6	—	3.0	藁灰釉	—	—	—	—	—	18~19C	200729 -000078
76	S E 12	磁器	紅皿	4.5	1.5	1.6	白磁	—	—	貝型	—	肥前	18C後半	200729 -000079
77	S E 12	磁器	急須蓋	5.8	—	1.9	色絵	雷文・流水文	—	—	—	瀬戸・美濃	18~19C	200729 -000080
78	S E 12	磁器	盃	—	3.2	(2.6)	染付	—	風景文	口川山口之景	—	瀬戸・美濃	19C	200729 -000074
79	S E 12	土製品	ミニチュア 御神酒徳利	1.0	1.3	4.2	—	—	—	—	—	—	—	200729 -000082
80	S K 15	土師器	小皿	[9.0]	[6.0]	1.5	—	—	—	糸切り底	—	—	—	200729 -000101
81	S K 15	土師器	小皿	9.0	6.0	1.6	—	—	—	糸切り底	—	—	—	200729 -000100
82	S K 15	磁器	皿	13.1	4.8	3.6	染付	—	草文	内底蛇ノ目軸 剥ぎ	—	肥前	18C後半	200729 -000096
83	S K 15	陶器	碗	[11.2]	[5.4]	6.6	染付	楼閣山水文	—	—	—	関西	18C	200729 -000102
84	S K 15	陶器	壺	11.0	6.4	16.5	褐釉	—	—	—	—	—	—	200729 -000099
85	S K 15	陶器	播鉢	[33.0]	[11.0]	12.5	—	—	—	—	—	—	17C後半	200729 -000098
86	S K 15	陶器	捏鉢	[24.4]	[10.0]	6.3	灰釉・銅 緑釉	—	刷毛目文	—	—	—	18C末~19C	200729 -000097
87	S K 16	土師器	小皿	6.0	4.0	1.4	—	—	—	糸切り底	—	—	—	200729 -000106
88	S K 16	陶器	皿	—	[4.4]	(1.4)	藁灰釉	—	—	砂目痕	—	—	17C前半	200729 -000103
89	S K 16	磁器	皿	—	[6.0]	(2.4)	染付	—	鳥文・亀甲 文	銅版転写	—	瀬戸・美濃	19C	200729 -000105
90	S K 16	磁器	皿	—	5.8	2.5	染付	—	楼閣山水文	輪花・口紅	—	肥前	18C後半	200729 -000104
91	S K 16	土製品	大黒様	4.6	3.1	1.6	—	—	—	型成型	—	—	—	200729 -000107
92	S E 12	銅貨	寛永通宝	2.4	—	1.2	—	—	—	古寛永	—	—	17C	200729 -000086

法量の単位はcm、〔 〕は復元値、()は現存値を示す。



第15図 延宝八年図 (1680)



第16図 元禄十四年図 (1701)



第17図 天保年間絵図 (1830～1844)

IV. おわりに

検出遺構群について

今回の検出遺構群について、まず、遺物からは時期が確定できないものの、溝SD10は直接切り合い関係にある遺構の中で最も先行することや埋土の特徴などから、侍屋敷建設以前の遺構と想定される。続く江戸時代の18世紀後半～19世紀代の遺構としては、土坑SK15、井戸SE11～14がある。土坑SK15は一部しか掘り下げを行っていないが、その形状や1m以上の深さがあることから判断して、穴蔵と推定される。穴蔵や井戸の存在から調査区は御先手組長屋の裏庭に相当する部分と判断されよう。その他に注目すべき遺構として、6基連続して掘られた土坑SK1～6がある。その出土品は大正末～昭和10年代を示し、昭和20年代の戦災や洪水によって多くが失われた、昭和初期の市民生活を物語る貴重な資料群である。

鉄砲小路と組頭岩井勘右衛門について

調査地が所在する螢川町の旧称鉄砲小路について、その成立は文献上では元禄9年(1696)の白石火事被災地の書上に「鉄砲小路」とあるものが現段階で最も古い。城下の絵図を参照すると、第15図の「延宝8年(1680)図」では既に区画割りが表現されており、その成立は元和7年(1621)以降、延宝8年以前と考えられる。一方、江戸時代後期の天保年間絵図には「御先手組ヤシキ」とあり、その名称通り、有馬氏の城下町整備以来、江戸期を通じて庄島侍屋敷と並ぶ足軽組の居住区であったことが窺われる。

第16図の元禄14年図を見ると、調査地部分に「岩井勘衛門組」と記され、調査地関係者で唯一名前が判明する。その「岩井勘衛門」については、延宝8年図や元禄14年図において、京限侍屋敷の現在の京町小学校校地北西隅にあたる場所に居住していることが判明するが、久留米藩士の系図を集成した『御家中略系譜』には岩井氏の記載がなく、その出自や系譜は不明である。管見の史料では、『寛文年中(1661～72)御家中分限帳』の「御傍弓鉄砲頭衆中」の項に「一、三百石 右同役(御使者) 岩井勘右衛門」とあるのが、各時期の分限帳の中で唯一の記録であり、さらに『廃家系譜知行高目録』には、「右同御代(梅蔵院様御代) 一、三百石 岩井勘右衛門 御馬廻組後大小姓 享保九辰於江戸出奔断絶」とある。

つまり、岩井氏は延宝8年以前の藩政初期から中期に中級藩士として足軽組頭などを勤め、馬廻組から大小姓組に昇格したことで藩主に近侍し栄達が望める位置にあったと見られるが、6代藩主有馬則維代の享保9年(1724)、理由は不明ながら勘右衛門は江戸で出奔し、岩井家は断絶している。

報 告 書 抄 録

ふりがな	てっぱうこうじいせき ーだい2じちょうさー
書 名	鉄砲小路遺跡 ー第2次調査ー
シリーズ名	久留米市文化財調査報告書 第273集
編 著 者 名	水原 道範
編 集 機 関	久留米市 文化観光部 文化財保護課
所 在 地	〒830-8520 福岡県久留米市城南町15-3 TEL 0942-30-9225 FAX 0942-30-9718 E-mail : bunkazai@city.kurume.fukuoka.jp
発行年月日	2008 (平成20) 年8月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地		コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査の原因
			市町村	遺跡番号					
てっぱうこうじいせき 鉄砲小路遺跡 第2次調査	く る め し ほたるがわまち 久 留 米 市 蛭 川 町		40203	—	33° 19′ 07″	130° 31′ 04″	2008.01.15 ～2008.01.25	141㎡	共同住宅建設
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構		主な遺物		特 記 事 項		
鉄砲小路遺跡 第2次調査	集落	近世	溝	1 条	陶磁器 土師器 瓦類 ガラス製品				
			井戸	2 基					
		近代	土坑	1 基					
			土坑	10基					
			井戸	2 基					
土木工事の届出日		平成19年12月17日 (19文財第992号-4)			遺物の発見届日		平成20年1月29日 (19文財第1119号)		
久留米藩の御先手足輕組長屋で構成された鉄砲小路侍屋敷の北西端部を調査。調査の結果、江戸時代の井戸や土坑を検出。さらに昭和初期の遺構群も多数検出し、江戸時代から昭和初期の市民生活を物語る貴重な資料が得られた。									

* 北緯・東経は「世界測地系」に基づく

鉄砲小路遺跡	
ー第2次調査ー	
久留米市文化財調査報告書 第273集	
平成20年8月31日	
発行	久留米市教育委員会
	福岡県久留米市城南町15-3
編集	久留米市
	文化観光部 文化財保護課
印刷	中村印刷有限会社
	久留米市梅満町972